

## (社)青年海外協力協会会長賞

### 一人一人同じ人間として

金沢市立森本中学校 三年 寺脇 恭平

私は青年海外協力隊の松井さんの講演でたくさんの事を学ぶことができませんでした。自分が普通だと思っていることが他の国ではできていないことが分かりました。家庭で電気が通っている、勉強ができる、水道が使えるなどのことだけでなく、幸せだと感じることができました。風邪をひいた時に病院へ行けない辛さは自分には理解できないと思います。なぜなら自分は病院という存在を普通だと思っいるからです。でも一人一人の命の重さは変わりません。その国に生まれてしまった以上なかなか変えることのできない運命かもしれませんが、その人々だけでな

く、先進国の人々の助けを借りても、最低限度の生活ができるようになることを、その国の人ではありませんが望みます。

私は日本という国に生まれ、不自由することも、辛いこともなく、そのまま育つてきました。けれども、話を聞くと人事とは思えませんでした。私は何気なく暮らしていますが、我々の普段していることが、発展途上国の人々を苦しめていると分かりました。少しの水の無駄使いや、電気のつけっぱなしなどがあると思います。その水でどれだけの人が助かるか、そう思うと、できる限り無駄使いをしてはいけないと思います。

自分たちが偶然この国に生まれた、ただそれだけのことだと私は思います。だから貧しい国の人々を見下したりすることはいけないことだと思います。

私がこんなにも裕福な国に生まれることができたことをとても幸せに思います。そこで、貧しい人々への援助をすべきだと思います。自分は中学生です、でも、そうだからといって何もしないことは、ただ、自己中心的なだけだと思います。実際自分達ができることは少ないと思います。でもその小さな積み重ねが少しでもその人々のためになると信じていきたいと思います。

自分は援助してあげた、このような考え自体が見下しているのかも知れません

が、その人々のためになると分かった時、援助して良かった、そう思えると思います。

一人一人同じ人間として、いつか暮らせるようになったら幸せです。そのために、今自分たちにできることをしていきます。募金という一つの手段ではなく、身近な人に世界の現状について少しでも話したり、伝え合ったりすることもしていきたいと思います。また環境問題についても考えていきます。

一人一人が同じ人間として、暮らせるように望むだけではなく、生活していきます。

一人一人が同じ人間として暮らせるようにように。